セント・ルークス・ガーデン―ロンドンの遠い記憶

石倉和佳

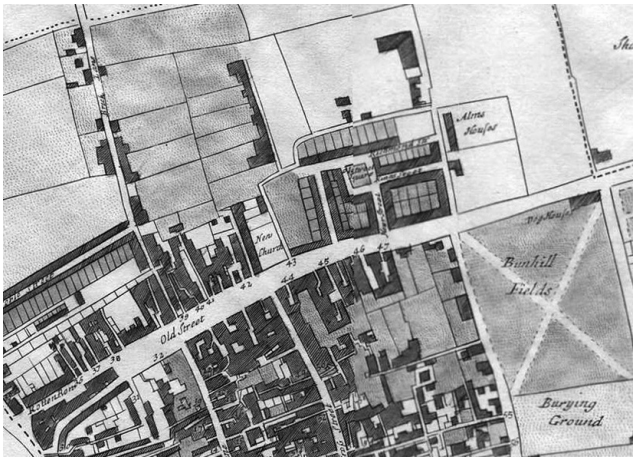
ロンドンのシティから北北西に数百メートル行ったところに、セント・ルークス教会(St. Luke's Church)がある。その北側に位置するのがセント・ルークス・ガーデン(St. Luke's Garden)である。この教会を中心としてオールド・ストリート(Old Street)を挟んだシティ北端までの地域は、かつてセント・ルークスと呼ばれる教会区であった。1733年に完成したセント・ルークス教会は、アン女王教会（Queen Ann Churches）とも呼ばれる、1710年に出された「ロンドンとウェストミンスターの新教会法」(New Churches in London and Westminster Act) によって建てられた教会群の一つである。この教会は、アン女王時代にバロックスタイル建築を推進した一人であるニコラス・ホークスモア(Nicholas Hawksmoor, c.1662-1736) のデザインによるオベリスク型の塔を持つ教会堂を持ち（写真）、現在でも建築物は健在である。とはいえ建築当初から地盤沈下に苦しんだこの教会堂は、20世紀の半ばには危険建築物として使用不能となり、屋根が外され廃墟となり、1964年に教会は閉鎖された。その後再利用の検討がなされ、教会建築の内側に全く新しい建築空間を作り外部は保存する形で新しい教会堂の再建が行われた。現在はロンドン・シンフォニー・オーケストラの練習場、およびレコーディングスタジオとして使われている。

教会がなぜ建築当初から地盤沈下に苦しんだのかといえば、おそらくこの地帯がもともと湿地帯だったため

St. Luke's Church, Old Street
2016年3月筆者撮影

である。セント・ルークスがシティ近郊の市街地域として発達したのは18世紀であるが、もっと古くは墓地などに利用されており、16世紀ごろから湿地帯を埋め立てる

土地改良がされていたらしい。近代になってロンドンのシティ近郊も街区が広がり、人々が土地を利用するために湿地帯を埋め立てる必要が出てきたわけである。1733年、教会が完成した頃は、この地域にはユグノー（フレンチ・プロテスタント）の人々やその他ロンドンに流れ込んできた多くの非国教会徒が住みつき、人口が増えていた。新しい教会をロンドン中に建築していく計画は、そうした故郷を離れた人々に道徳的な指針や心の平安を与える、といった宗教的な役割のみならず、誕生、死亡、結婚などの行政的な手続きを行う機能がロンドン各地で新しく必要となっていたからである。この地区のアイアンモンガー・ロー(Ironmonger Row)に晩年暮らしたジョージ・サルマナザール（George Psalmanazar, c.1679-1763）は、この地区が教会区として独立した時からしばらく後に住み始めたが、異国から渡って



*A Map of St. Gilee's Cripple Gate. Without. With Large Additions and Corrections, 1*720. 図を左右に横ぎる道はOld Street で、その中央付近上側に広がるのはセント・ルークス教会の敷地、およびアイアンモンガー・ローの地域である。

来て改心し、国教会に深く帰依するその姿は、教会の建設を推し進めた行政側からすればこの地区のモデル住民ともいえるものだった。

アイアンモンガー（Ironmonger）という名は、その名の通り鍛冶屋など金属加工を生業とする人々が多く暮したことによる。近くにはミッチェル通り(Michell Street)という名の通りがあり、これはロンドン市民であったトマス・ミッチェル(Thomas Michell) という人物が1527年に金属加工業の組合（Ironmonger Company）に自分の地所を寄付したことに由来するらしい[1]。が、16世紀当時、ただの草原であった場所に違いなく、実際のところは18世紀の人口増と多くのアルチザンを収容する場所の必要性から、この所縁のある地域に多くの職人が暮らしたということだろう。印刷のメッカ、フリート・ストリート(Fleet Street)へも徒歩圏内のこの地域には、活字職人も多くいたに違いない。

シティからほど近いという地理的な利便性は、かつて湿地帯で人の住むところではなかった地域を急速に人口密度の高い地域へと変化させた。そして19世紀の半ばには違法な商取引や犯罪が日常的に横行するロンドン有数のスラム街を形成するまでになった[2]。セント・ルークスに移住してきた人々に非国教会徒が多かったということは、イギリス政府の法律により様々な制約のもとに暮らしていたということであり、反社会的な文化を生み出しやすい土壌があった。そして貧困層も多く暮したことから、18世紀から精神病院を始め多くの病院が建てられ、救貧院の数も増大し、公共の衛生環境の向上を目的として公衆浴場も建てられた。人々を清潔に保つことは社会福祉の一環であり、19世紀のイギリスでは公衆浴場を作ることが奨励されたのである。現在アイアンモンガー・ロー・バス(Ironmonger Row Bath) として営業を続けている浴場はその名残の一つである[3]。

現在浴場が経営されている場所が商業地区として繁華な賑わいを見せているか、というと必ずしもそういう事はない。むしろロンドンの中心部にしては閑散としている。19世紀の後半から手掛けられたスラム一掃の政策は、病院や救貧院や労務所の施設を次々と改修し、取り壊し、今ではそのほとんどがこの地区から消し去られた[4]。セント・ルークスという地域名称も現在ではほと

んど使われていない。悪所の連想が働く地域名を、ほかの名前に変えることで場所の記憶を消したのである。セント・ポールから1キロと少しのこの地域には、2階建て木造の公団住宅のような借家が建ち、のんびり犬を散歩させる人や、グラウンドで試合をする若者たちを目にする。百年前の猥雑な街の記憶は視界から洗い清められ、そこで塵芥にまみれて死んでいった人々は公園となった土地の下に眠っている。

セント・ルークス・ガーデンは、教会のリノベーションに伴って、2006年に新しく整備されたようである。ランドスケープ・デザイナーたちがそれまで行われた調査を総合して調査として纏めたものが残されている[5]。この庭は18世紀から19世紀にかけて墓場として利用されていた土地である。当時のイギリスでは基本的に土葬であるので、墓場には常に誰かが埋められていただろう。埋めて何カ月か経つと腐敗して分からなくなるので、また次を埋めるのである。現在の庭の区域は、そうした墓場の地面から1メートルは土が盛られているらしく、墓場らしい気配はほとんどない。また、敷地の北側には中世期の遺物もいくらかは残されている可能性があるようである。もっと興味深いのは、17世紀ピューリタン革命期の、防御壁の遺跡が庭の北部を横切っている可能性があるということである。今庭がある場所を、かつてオリバー・クロムウェルが軍隊を率いて進行して行ったかもしれない。クロムウェルに命令されて石積みを作らされた兵士や職工達が、密かにため息をついていたかもしれない。

この庭で目につくのは、大きな木々の並木である。21本の立派なプラタナスがあり、それらのうちの19本はカテゴリーA、すなわちその地域に40年は良い影響を与えると考えられる大切にすべき木、とされている[6]。季節が良ければ葉がさわさわと風に揺れ、適度な影を作り出し、心地よい空間となるのだろう。とはいえ、この公園には心を落ち着かせる庭の安心感をあまり与えてくれないのも確かである。ロンドン中心部というのに、がらんとした感じで、少し遠くに散漫な印象でビルが目に入るせいもあるかもしれない。この公園の中に立つと、開発途中の造成地の中に居るようにさえ感じる。墓場が公園に作り変えられた後、しばらくはばら園であったらしいが、今はそれも取り去られてしまった。植物を植えると埋葬した地層に影響がでると判断されたからであるらしい。ランドスケープはあるが人肌のぬくもりはない、そんな誰もいないがらんとした空間の横に、かつて教会だった白い建物が静かにたたずんでいる。

中央に見えるビルがIronmonger Row Bathである。浴場の前から向こうに続くのが、Ironmonger Row である。 筆者撮影

セント・ルークス・ガーデンの中　筆者撮影

[1] thestreetnames: Little slices of London's history https://thestreetnames.com/tag/ironmonger-row/ 20170310 参照。

[2] Nick Blackによると、"In the 1850s St Lukes had 245 people per acre, more than St Giles (221), Clerkenwell (170), Westminster (71) or Islington (30)."ということであるから、セント・ルークスには約1200坪ほどの土地に250人の居住者がいたことになる。 "The lost hospitals of St Luke's," Journal of the Royal Science of Medicine," 100(2007): 125-129. https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC1809165/ 20170108

[3] 18世紀から19世紀のこの地域の病院および衛生状態については、Nick Black, "The Lost Hospitals of St Luke's,"参照のこと。

[4] "St Luke's, Islington: A little-used name for the area surrounding the western half of Old Street," in Hidden London http://hidden-london.com/gazetteer/st-lukes/ 20170310 参照。

[5] Breeze, "St. Luke's Gardens Planning Design Report", 2009. https://www.whatdotheyknow.com/request/12622/response/32125/attach/4/750%20StLuke%20sGardens%20PLANNING REPORT%20FINALDRAFT2.pdf 20170310

[6] "Category A. Trees of high quality and value capable of making a significant contribution to the area for 40 or more years." http://www.treetree.co.uk/tree-surveys.html 20170310 背表紙写真も参照。 木々の幹は太く立派である。